

令和 2 年度 第 2 回たまの版CCRsea懇談会 議 事 概 要

日 時	令和 3 年 1 月 27 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 00																																				
場 所	玉野市消防庁舎 3 階 消防会議室																																				
出席者 (敬称略)	<p>【委 員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">学校法人加計学園玉野総合医療専門学校 介護福祉学科長</td> <td style="width: 40%;">五嶋 幹雄</td> </tr> <tr> <td>玉野市医師会 会長</td> <td>渡邊 正俊</td> </tr> <tr> <td>玉野商工会議所青年部 特別理事</td> <td>岡崎 晋典</td> </tr> <tr> <td>公益社団法人玉野市観光協会 専務理事</td> <td>岡本 章弘</td> </tr> <tr> <td>うのづくり実行委員会 委員長</td> <td>森 美樹</td> </tr> <tr> <td>公募委員</td> <td>木下 雅行</td> </tr> <tr> <td>公募委員</td> <td>岡崎 文代</td> </tr> </table> <p>【オブザーバー】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事</td> <td style="width: 40%;">京谷 潤</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 理事 事業企画部長</td> <td>勝俣 政信</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 統括マネージャー</td> <td>佐々木裕介</td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%;">玉野市 政策財政部</td> <td style="width: 20%;">部長</td> <td style="width: 40%;">藤原 秀紀</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>課長</td> <td>大倉 明</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>課長補佐</td> <td>高橋 千恵</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>主査</td> <td>藤本 修平</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>主事</td> <td>川井 良介</td> </tr> </table>		学校法人加計学園玉野総合医療専門学校 介護福祉学科長	五嶋 幹雄	玉野市医師会 会長	渡邊 正俊	玉野商工会議所青年部 特別理事	岡崎 晋典	公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	岡本 章弘	うのづくり実行委員会 委員長	森 美樹	公募委員	木下 雅行	公募委員	岡崎 文代	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事	京谷 潤	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 理事 事業企画部長	勝俣 政信	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 統括マネージャー	佐々木裕介	玉野市 政策財政部	部長	藤原 秀紀	政策財政部総合政策課	課長	大倉 明	政策財政部総合政策課	課長補佐	高橋 千恵	政策財政部総合政策課	主査	藤本 修平	政策財政部総合政策課	主事	川井 良介
学校法人加計学園玉野総合医療専門学校 介護福祉学科長	五嶋 幹雄																																				
玉野市医師会 会長	渡邊 正俊																																				
玉野商工会議所青年部 特別理事	岡崎 晋典																																				
公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	岡本 章弘																																				
うのづくり実行委員会 委員長	森 美樹																																				
公募委員	木下 雅行																																				
公募委員	岡崎 文代																																				
一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事	京谷 潤																																				
一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 理事 事業企画部長	勝俣 政信																																				
一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 統括マネージャー	佐々木裕介																																				
玉野市 政策財政部	部長	藤原 秀紀																																			
政策財政部総合政策課	課長	大倉 明																																			
政策財政部総合政策課	課長補佐	高橋 千恵																																			
政策財政部総合政策課	主査	藤本 修平																																			
政策財政部総合政策課	主事	川井 良介																																			
配布資料	<p>資料 1 たまの版 CCRsea 懇談会委員名簿</p> <p>資料 2 たまの版 CCRsea 懇談会設置要綱</p> <p>資料 3 玉野市審議会等の会議の公開に関する要綱</p> <p>資料 4 第 2 期たまの版生涯活躍のまち基本計画 (素案)</p>																																				

議 事

1. 開 会

2. 開会あいさつ

3. 委員の紹介

4. 懇談会の運営方法について

- ・事務局より、以降の進行は、座長である五嶋氏に依頼したいとの説明あり。
→ 了承。

5. 議事

- ・事務局より、資料4「第2期たまの版生涯活躍のまち基本計画（素案）」について説明。
→ 主な質疑は以下のとおり。

委員 A : 資料4のP16に、「たまの版 CCRsea 懇談会」を設置し、外部評価を実施するとあるが、これだけ人数がいるので、事務局説明を除いた1時間の会議時間では時間が足りないのではないか。また、当日に資料を見て説明を聞いて評価するのは難しいのではないか。

事務局 : 外部評価とは、本日も提示させていただいている第2期基本計画の実施状況等について、次年度以降の懇談会で評価いただくことを想定している。本日の会議については、ご提示させていただいている第2期基本計画の素案の中身について、成果指標の設定が妥当であるかとか、こういった事業を展開しないといけない等のご指摘をいただければと考えている。

委員 A : 先ほど説明いただいた内容と資料が事前に届いていれば、よりしっかりと中身を理解した上で、意見を述べることができる。

事務局 : 今後、事前に資料を配布した上で協議していただけるようにしたい。

委員 B : 玉野市は自然があるなどコロナに関して優位性があると思う。今後、コロナによってもたらされた新しい生活様式は世界的にみても継続することになると思うので、それをしっかり意識して施策を推進してほしい。

事務局 : 観光など、ソーシャルディスタンスや新しい生活様式を意識しながらしっかりと取り組んでいきたい。

委員 B : 現在、空き家調査・掘り起こしを行っている中で、「空き家を活用しませんか」、「こんな補助制度があります」といったチラシを投函しているが、空き家の

解体に対する 50 万円の助成は非常に有効だと思う。空き家は、安全安心や景観の面で地域住民の関心も高いし、移住希望者が寂れたイメージを持つ原因にもなるので、引き続き助成制度などの取組を継続して行ってほしい。

委員 A : 今回の会議では、この事業に対しての予算等が決まっているという話ではなくて、考え方についての話ということか。基本計画の素案に事業が記載されているが、予算化が確約されているのではなくて、これから予算化を行っていくという理解でよいか。

事務局 : そのとおり。一部事業を除き、今まさに予算化に向けた手続きを行っており、令和 3 年 3 月議会で審査されることになる。ただいま申し上げた一部事業は、資料 11 ページの令和 4 年度からの開始を目指し検討を行う事業のことで、こちらについては事業 1～7 に掲げる事業を実施しながら、また関係機関とも連携しながら、令和 4 年度以降の開始に向けて検討を進めていく予定である。

委員 A : 資料 11 ページの令和 4 年度からの開始を目指し検討を行う事業が今回新しくやっていく事業ということよいか。観光地域づくり法人 (DMO) がどういうものになるかは、これから具体的に決めていくのか。

事務局 : そのとおり。観光協会を中心に、新たに観光地域づくり法人 (DMIO) を構築することを想定しているが、その形・あり方についても様々な方に意見を頂きながら進めていこうと考えている。

委員 B : DMO について、1 年ほど前からワークショップや普及会などを行っているが合意形成まで至っていない。玉野で作ろうとしている DMO に限らず、DMO という仕組み自体がわかりにくいという意見もあるので、関係者にはしっかりと丁寧に説明して理解していただこうと考えている。また、DMO に移行した後の業務体制や人員体制、収支についても不安視する声がある。

事務局 : DMO がどういった枠組み、仕組みになっていくかはいちから意見を頂きながら進めていきたいと思う。そういった観点ではすでに観光事業・健康事業を進められている玉野コミュニティ・デザインとも連携して進めていかなければならないと考えている。方向性等について何かご助言等をいただければと思うがいかがか。

オブザーバー : 元々観光地域づくり法人というのは、個々の商店がバラバラに行くと費用が余分にかかったり、効果が薄いプロモーションなどの取組を、地域を代表して集中的に実施する組織で、観光庁がこの DMO という組織の組成を推進し

ている。ただいま例にあげたプロモーションをはじめ面的に取り組んだ方が効果が高い事業があるので、今コロナ禍で観光客が減っている中でどのように観光客を呼び戻すか、地域全体として連携しながらやっていければと考えている。

委員A : 今ある既存の団体でそれをやっていくのは難しいということか。成り立ちが違うのか。

オブザーバー : 国として、観光協会という組織を変えながら、地域から集めたお金を使って、代表して情報発信していくようにという考え方がある。今ある観光協会の役割は、そうしたものより、もっと公共的な要素が強いので、組織としては変わっていくかと思う。

委員A : CCRsea の第1期では、最終的には事業推進主体が自走できるような形を作っていくという流れがあった。今回新しいものが始まる中で、ある程度税金を投入することになると思うが、投資に対していかに回収が出来るのか、この目標値の設定が経済効果としてどれくらいの設定になっているのか。例えば一人の移住者を入れるためにどれくらいのコストがかかっているのか、など細かい数的なものが分かるとよいと思う。そうすれば納得できて、これでやろう、というのも言いやすいと思う。

事務局 : 各事業の事業費を合算するとトータルコストになると思われがちだが、各事業は様々な目的・側面があり、必ずしも CCRsea のためだけに行っている事業のみではないので、トータルコストの算出は難しい。一方で、前回と比較して、CCRsea の効果をより直接的に測定できるよう、このたびの3つの指標を設定させていただいた。経済効果を算出するには、例えば観光であれば、アンケート調査を行い、宿泊、飲食、土産物等の観光消費額の一人当たり平均を算出して、これと観光入込客数をかけ算する必要がある。そうしたことも見越して、本計画の3つの指標の1つとして観光入込客数を設定している。

委員C : 以前、玉野コミュニティ・デザインが実施した生活習慣病予防を頭においたヘルスツーリズムや渋川海岸健康教室などのモニターツアーでは、他県からの参加者も多く、私も一緒に玉野の良いところを見て回った。その中で玉野はよいところだから住んでみたいという発言があったり、YouTube などでの情報発信も行っており、すごく良い取組だと思った。しかし、それはそのまま終わってしまって市民は全然知らない。せっかく良い取組をしているのだから、市民向けにも、外向けにもしっかりと情報発信をすべきである。今回の計画でもただ実行するだけではなくて、もっと宣伝をして、みんなに知

ってもらわなければならないと思う。

事務局 : ご指摘のとおり。今年度から新たに開催した「たまの未来会議」でも、若い方たちから、情報発信の重要性やその方法についてアイデアを出してもらったので、しっかりと意識して情報発信に取り組んでいきたい。また、秘書広報課で行っている別の事業でも、若い方を中心に様々な方に関わっていただきながら効果的に情報を届ける方法を検討し、実施している。引き続き外に向けても市民に向けてもしっかりと発信していきたい。

委員D : 令和4年度の開始を目指して検討するという資料11ページの事業だが、瀬戸内国際芸術祭の会期を起点とするのではなく、それ以前にもしっかりと観光を振興する必要がある。瀬戸内国際芸術祭が開催される何年か毎の観光にだけ力をいれるのではなく、毎年集客するのが大切ではないか。文章を変えていただければと思う。玉野の素晴らしい観光を瀬戸内国際芸術祭にあわせて、というのでよいのではないか。

事務局 : もちろん、毎年度の観光振興についても、引き続きしっかりと取り組んでいきたい。書きぶりについては、3年に1回の会期と言わず、毎年度しっかりと取り組むという形での書き方を検討させていただく。

委員D : 前回も話があったが、交通手段に関する取組が入っていない。これがないとどこにもいけないので、対策を入れていただければと思う。また、先日、くじら島にいったが非常に素晴らしいところだった。海という観光資源も活用しながら効果的な観光振興を進めて欲しい。

事務局 : 玉野コミュニティ・デザインもヨットチャーターなど船を使った観光をされているので、引き続き取り組んで欲しい。

委員D : 港町としてのメリットが活かしきれていないと思うので、もっと地域資源を使った取組を進めて欲しい。また、若者を取り込めていない、若者が集まらないというのは何とかしなければならぬ。毎年1%ずつ人口が減少しており、手をこまねいているだけではいけないと思うので、よろしく願いしたい。健康に関しては、CCRsea 構想とかけ離れている感じを受ける。また、予防対策については連携が足りないと感じている。一つの部分でしか予防的なものをやっていないので、特に高齢者の介護予防に対して対策を練っていかなければならないと思う。

事務局 : ご指摘のとおり。健康づくりについて、CCRsea というくくりの中で全庁的に、

また他の団体も含めてしっかり連携しながら進めていければと考えている。

委員E : 移住に関して言うと、住まいを探されていても、なかなかマッチング出来ないという大きな問題がある。一方で玉野市内には2000軒以上の空き家があるというのは調査で分かっている。実際、各地域を回って、空き家と思われる家に手紙を投函し利活用を促しているが、連絡をもらえる大家さんはごく一部で実りが薄い。一方で、家を探されている移住希望者は多いので、そのマッチングがスムーズにいけば移住者数の増加が期待できるのではと考えているが、打開策を見いだせずそこで止まっている。他市の事例として、神戸市では、来年度から、空き家の状態で利活用を考えないで放置していると、税金の控除を無くすという話を聞いた。他市の事例等も参考にしながら、効果的な取組を実行しないと、現状のままでは問題解決に向かって進まないのではないかと思う。情報発信にしても、費用対効果を意識しながら、意義のある取組を行って欲しい。限られた時間の中で刻々と悪い方に向かっているのは確かだと思うので、一刻も早く今までにない大胆な取組を行うべき時に来ているのではないかと思うので、ご検討いただきたい。

事務局 : 空き家対策については、関係する部署ともしっかり連携しながら、また先進事例も研究しながら進めていきたい。空き家の調査について、以前にも同様のご意見を頂き、今後、地域の空き家調査をされる時には、地域のコミュニティの方の顔が見えて、その方との情報の共有がしやすくなるような方法を検討している。次年度以降に向けて、協働推進課や各公民館長等が地域のコミュニティ協議会の方とつながりがあると思うので、関係課と連携・調整しながら、引き続き空き家の調査等も進めていければと考えている。

委員A : 時間がない。今生まれた子どもが60歳になるの頃には、人口が1万人くらいに減少しているなんてことも考えられる。何か抜本的なことをやっていかないといけない。

委員E : 今が舵をきる時という気がする。

委員F : 元々、この生涯活躍のまち基本計画は横串の計画であるため、第2期たまの創生総合戦略など、他の計画・戦略に記載がある事業も混ざっているので、一見して中々形が見えてこない。このことをきちんと認識して事業を進めることがポイントだと思う。また、近々、玉野にホテルが出来ると聞いているので、そうしたことも見据えて、玉野に滞在してもらえる仕掛けをすることも大きなポイントになってくると思うが、この計画にはそういったものは入っていない。他の委員から指摘があったが、瀬戸内国際芸術祭に合わせて計

画を立てているように見えるが、そうではなく、毎年、人が来てくれるような計画を立てていくべきだというのは同感である。市が考えていること、ホテル事業をどう捉えているかを説明してもらえれば、計画が見えてくるのではないかと思う。

事務局 : 資料4の11ページの図は第1期から継続して目指している将来像を示したものであるが、昨今の民間投資の拡大や観光における宿泊施設の整備というのは大きな成果であると感じている。現状、そうしたことが様々計画されていると認識している。民間投資によるJR宇野駅周辺のホテル整備も形が見えてきている。また、市が競輪場の整備をする中で、整備事業の受託事業者が、来年の開業を目指し、ホテル整備を進めているという情報もある。こうした民間からの投資拡大はCCRsea計画で目指しているところである。また、こうした大規模投資につながる可能生のある観光消費の拡大も進めていきたい。今まで、玉野市はどうしても通り過ぎるまちというイメージがあった。こうした中で、大きなホテルが2つもできるというのは、観光を核として地域の事業者がしっかり稼いでいける仕組みづくりに向けて、希望が持てる動きではある。

委員F : 先ほどの空き家の話について、事務局から色々な部署と連携した取組を検討するという回答があったが、しっかりと取り組んでいただきたい。それから、ヘルスツーリズムが非常に良かったという話があったが、私も初期にモニターとして参加したが非常に良かった。その時、市外のライターのような人が多く参加しており、帰ったら記事を書くといっていたが、時期が過ぎるとだんだん萎んでしまったという事実がある。情報発信事業など令和4年度開始に向けて検討と記載されているが、早急に進められた方がよいのではないか。CCRseaが成功し玉野が活性化することを目指してほしい。昔の玉野を知っている人間としては、当時の賑わいを取り戻してほしい。良いところがいっぱいあるので、そういう情報を発信して、移住したいという気持ちを顕在化させることが大事だと思う。

委員D : あまりにもCCRsea構想が素晴らしすぎるので、その中にいろんな分野が入っており、具体的に形成するのは非常に難しいと思う。一番はこれから玉野のまちづくりをどうやってしていくかだと思う。若い人や子供たちお年寄りも全ての人たちを巻き込んでやろうというものであろうから、是非ともやっていただきたい。負のスパイラルにならないように、正のスパイラルになるようにしっかり取り組んでいただきたい。

委員G : 基本計画の素案について、第1期と同じような言葉が出ている。第1期はも

うすぐ終わって、前回の懇談会では残念ながら目標には届かないだろうという話があったが、目標が達成が困難な第1期と同じ単語が並んでいると、第2期どうなるのだろうかというところが見えてこない。今の基本計画の中で第1期と第2期でどう違っていてそれによりどう好循環が生まれるか、ということが分からない。わずかではあるが目標数値の設定がプラスになっているので、今の段階でプラスに転じる部分が見越せているのだと考えるがどうか。

事務局 : ご指摘の通り、第1期計画のKPIについては、目標達成が困難な状況である。そうした中で、見直しも検討した上で、第2期計画の素案に記載しているKPIを提案させていただいている。その中で第1期計画でも芽が出始めているものがあり、移住者による飲食業、宿泊業・ゲストハウスなどの進出、特産品の開発などが進んでいる。移住者数に関しても目標の数値には達していないが着実に増えてきているという現実があり、明るい兆しが見えていているので、引き続き進めていきたい。第2期計画で令和4年度以降の開始に向けて検討としている事業について、できれば間を置かずしっかりと取り組んでいった方が良いという意見もあったが、DMO設立などについては、組織の形・あり方、最終的に自分で稼ぎながら自走する仕組みの構築等について、第2期基本計画の素案に掲げる様々な事業を展開する中で、DMOのあり方なども含めてしっかりと検討を進めていきたい。特に基本構想の考え方は第1期基本計画の将来像を踏襲して引き続きやっていくので、同じような言葉が出ているところがあるが、DMOの設立など新たな展開も含めて全体として、しっかりと進めていきたい。

委員G : 観光に注力した内容になっているが、コロナ禍で人の動きが制限されているので、観光に根ざした産業というのは難しいのではないかと思う。私もそうであるが、仕事の関係で、外出・外食も極力控えているという人も多いのではないかと思う。外に出ないというマインドが強い中で、観光という外にでないと成り立たない産業を中心に置くのは正直厳しいかと思うが、そのあたりは見込んでの数値となっているか。

事務局 : コロナの影響で基準値となる令和2年度の数値も下がっている、また下がる見込みであるため、そうした影響も勘案して目標を設定している。また、本計画は収束後も見据えたものになっており、収束までに時間がかかることも見込んでいる。そのため、計画の最終年度の目標は、コロナ前の観光需要が高かった頃の水準まで回復させることとしている。当然、コロナウイルス感染症防止策は最優先と考えているが、移住された方の中には観光業に従事されている方もいるので、そういった方がこの苦しい時期を乗り越えていくために、別途対策を取っていききたいと考えている。これまで、国の臨時交付金

を活用して、宿泊事業者や飲食事業者を支援するため、地域商品券の発行等を行ったきた。ご存じのように、現在は第3波もあり、そうした消費活性化の動きは難しいが、これまでの経験を踏まえ、次年度以降、ワクチン接種等で感染症が収束した後など、適切なタイミングで観光振興に取り組めるように準備を進めていきたい。こうした理由で、3年後に以前の水準まで回復させていきたいという思いで目標値を設定させていただいている。

委員F : アフターコロナというか、いずれにしてもウィズコロナだと思うが、感染状況に応じて、感染防止策と観光振興などを切り替えながら適切に取組を進めていってもらいたい。また、素案の最終ページにある外部評価について、具体的に数字を出して検証しながら、それを見て新たな改善策を実行していくことが重要ではないかと思う。また、CCRsea 計画は事業内容が多岐にわたる大きい計画なので、ポイントをある程度絞って具体的に進めていただきたいと思う。

事務局 : 本日頂戴した意見を踏まえて「基本計画（素案）」を修正し、今週中に2月19日を締め切りとして、パブリックコメントの募集を開始し、本年3月に「基本計画」を策定する予定である。

7. 閉会

以上